

泉南市における教育・保育を語る会発言要旨

平成16年6月9日（水）午前10時～12時 あいびあ泉南 1階大会議室

〔参加者〕

一般参加 保護者43名 学校関係職員2名 一般市民4名
審議委員 鍋島 田中 井原 南 若林 堀口 中野 杉本 井上 福本 中筋 西浦
 星子 夏川 河野 阪上 吉野
事務局 梶本 飯田 薄波 太田 北島 三王 宮崎 佐野 小林 衣笠
 小合 浅野 右馬 古藤 田中 坂口

幼児教育について

幼稚園・小学校の保護者	1の2「小学校へ行くまでの子ども達をどのような集団で育てることが望ましいと思いますか。」1学年1クラスに通園していますが、「たくさんの人数のなかで揉まれた方がよい」という意見が出ていましたが、私の子どもの場合、人前に立つのが苦手なので1学年3クラスもある大勢の中でどれだけ自分の意見を言えるのか心配なので、1学年1クラスという環境も無くさないで残して欲しいと思います。
幼稚園・小学校の保護者	保育料がいきなり2000円上がりました。噂ですがどこかの幼稚園はパン給食が入るのではないかと。保育料が上がったことを知らない方が多かったのではないのでしょうか。
小学生の保護者	来年から2年保育で入園させる子どもがいます。少人数で子どもの可能性をすごく伸ばしていただける1学年1クラス制の幼稚園を選んで入れたいと思います。先ほど発言のあったお母さんと同じ幼稚園に入れるつもりです。多いところで揉まれたというお母さん、少ないところで個人を大切にしてもらえる教育方針で欲しいというお母さん、いろいろなご家庭があると思いますので、そういったニーズを汲み取っていただける幼稚園教育であっていただきたいと思うことと、地域の子育ての支援をしている幼稚園の取り組みを評価してほしいと思います。
私立の幼稚園の保護者	娘が2歳で、下の子が3ヶ月のときに、母親が病気になり余命数ヶ月というときに保育所に入れようと思い相談に行ったところ「同居でないとダメ」と言われました。これから、少子化で自分の両親に配偶者の両親の面倒をみなければならないときに、おかしいのでは？
幼稚園・小学校の保護者	私の子どもの幼稚園は1学年3クラスで、1クラス20人で先生に見てもらっています。これ以上子どもの人数が増えると、子どもの個性とか、初めての集団生活の中で、対応していただけないのではないかと考えています。決まっているのは30名だと思いますが、30人のクラスだと先生も子どもも負担が大きいのではないかと思います。規模としては、できれば1クラスは20人前後が適正ではないかと思っています。次世代育成のアンケートの調査にも出ていますが、公立幼稚園を選ばれた理由は地域に近いからという理由が私立幼稚園に比べてダントツに多い。すべての保護者の方が気軽に車とかで送り迎えができる訳ではない。やはり自転車とか徒歩とかで雨の中送り迎えします。いまの時代、子どもの送り迎えを必ずして下さ

	いということなので、雨の中、寝ている子どもをベビーカーに乗せて送り迎えとかありますので、できれば地域に子ども達の足で通える幼稚園が公立として必要ではないかと思います。
幼稚園・小学校の保護者	いま鳴滝の幼稚園に通っていますが、1クラス年長が4人で、年少が8人しかいなくて、小学校にいくと第1と第2の小学校がありまして、そちらに分散される形になります。子ども自身にとっては少人数のなかで生活していて小学校になり友達と別れるという環境が不安になっています。幼稚園・小学校・中学校がトータルになった教育を考えてほしいと思います。
	いまの地域の支援は0歳から2歳までのが多いのですが、3歳からは分岐点で保育所に預けたり、私立の幼稚園に入れたり、公立になるともう1年あとになります。そうすると、お友達がいない、近くに遊ぶ友達がいない、公園に行っても誰も遊んでいない。3歳から公立に入れるまでの1年間は子どもにとっても活動が活発になるし、お友達と遊びたいという気持ちが一番強い時期なんですね。その1年間の空白が親にとっても子どもにとってもつらい時期になります。近くに同級生とかがいる方はあまり苦痛にならないと思いますが、地域によっては全く同級生がいないとか、聞いているので、その1年間が何とかならないかなと思います。去年ぐらいに、3歳保育の話があったと思いますが、その後どうなったのでしょうか。
幼稚園・小学校の保護者	上の子どもが通っていた幼稚園に下の子どもを入園させようと思ったら、園区ではないということで、違う幼稚園に通うように言われた。今は楽しそうに行っているし、同じ学校にあがる子どもも多いので、その方が友達もできてと、よかったんですが。校区によって家がたくさん建って、子どもの人数の多いところと、すごく少ないところがある。年長が4人で年少が8人でそのまま小学校にあがるのかということには納得いきません。園区・校区の見直しをしてほしいと思います。
審議委員	保育料2000円値上げは、私も知らなかったのですが、それはいつ決まって、その2000円分はどのように使われているのか？
審議委員	この保育料の問題も、私たち審議委員にとっては頭の痛い話です。何故2000円値上げかと言いますと、市の全体の財政の赤字を埋めるために、値上げされています。小学校・中学校は義務教育ですから無償の原則がありますから、お金を取れません。どこに付けが回っていくかといえば、保育所・幼稚園に回っていきます。つらい問題がそこに横たわっています。
	上のお姉ちゃんが幼稚園へ行ったときも2000円値上がりしました。次に下の子どもが行くときもさらに2000円値上がりしています。もし願書を出す前に2000円値上がりするという話があれば、他の幼稚園、私学とかも考えられる訳で、実際近くにある私立の幼稚園と比較しても差が縮まってきているんですね。保育時間は私学幼稚園の方がはるかに長いんですね。なので、結局年間で比較すると、公立幼稚園の教育の内容が違うということはあるのですが、我家みたいに年齢が2年空いてると3年幼稚園に入れると重なる訳なんですね。2人分の授業料を払わなければ

	ならない。それは経済的にも厳しい。私立の方がいいということになるとおかしくなってくるので、もしそういうことを考えておられるのであれば願書を受け付ける前にきちんと説明をつけていただきたいと思います。
審議委員	説明責任をちゃんと果たしてほしいと、これは教育委員会の事務局だけではなく、この保育料の値上げを決めた議会にも市民への説明責任はあったと思いますね。お金を上げて教育の質は上がっていないじゃないかと、これをどうしてくれるのか。今、保育料上げて先生の数は減っていますし、財政的にはますます苦しいですから、教育費は市全体では下がっていく一方なんですね。この状況のなかで皆様の力を借りたいということなんです。お金の問題はあるのですが、皆様自身の市民の力でこの幼児教育を変えていくことができるとしたら、どんなことができるのかのご意見をいただきたいと思います。
審議委員	幼稚園現場で働いています。現場の人間として目の前に居る子ども達を中心にした審議をしていきたいと考えるときに、集団の問題とかもありましたが、公立の幼稚園としては今まで1人1人を大事にする保育というのを一番大事にして保育をやってまいりました。その中で、1人1人が大事にされるということと幼稚園というのは集団生活の初めですよ。これから始まっていく社会への第1歩を踏み出すという意味での集団生活のあり方とかそういったあたりも目の前の1人1人の子どもさんの育ち、子どもにとってどういうあり方があればいいのか、保育料と保育内容の関係とかありますが、保育内容についても時間についても子どもにとって望ましい内容とか時間とかを今後審議会のなかで審議していきたいと思います。
4人の子どもの父親	小学校へ行く前に子ども達にどのような力を身につけさせたいか、これは小学校・中学校の義務教育で子ども達に身に付けさせたい力と同じだと思います。やはり命を大切に、人を大切にするとか情操教育ていうかそういう部分の力をつけるような教育をさせた方がいいのではないかと。そのために、この間テレビで見たのですが、幼稚園が老人ホームと隣同士にあるとか、お年寄とすぐ接触できるようなところに幼稚園を変える、そういうのを見ました。私は、浜保育所しか知りませんが、泉南市で一番端ですね、そして泉南市中から来てますね。やはり、交通の便が悪いから駅の近くとか、保育所だから送り迎えすべて親御さんがしていますので、交通の便のいい所に移設した方がいいと思います。

学校教育について

	中学校の修学旅行のことですが、今沖縄に行かれてるそうで、費用が6万円ぐらいかかるということで、それと私服だそうです。では10万円ぐらいかかる。修学旅行に6万円もかかるのはおかしい。一体どういう基準で修学旅行を決めているのか。
審議委員	修学旅行の行き先どう決めるのかは、それぞれの学校ごとに話し合いをされていると思うので、一律こんな基準とかではないと思いますが、この不況の中で6万円の修学旅行という保護者の負担と、たぶん違うご意見の方もいると思うんですよね。

	私立の中学校に行かせれば海外の修学旅行が当たり前なのに、何故連れて行ってくれないのかというご意見もあると思います。難しいですね。
審議委員	本校は、いわゆる反戦平和をしっかりと学んでいこうということで広島に行っている。その流れを受けて中学校では沖縄に行っている。そのような過程を踏んでいます。修学旅行に行くまでの学習であるとか、事後の学習であるとか、宿泊も学習の中の一つのプログラムになってますので、そういう丁寧な過程を踏んで子ども達と行くというふうになっています。
審議委員	学習の流れの中でどのような修学旅行にするのかということについて、保護者が意見を言う、そういう機会を作っていこうというのが「開かれた学校」、あるいは住民も地元の中学校でどういう教育をするということについて関わっていこうというのを「開かれた学校」というんですが、もっとこうしたところを開いた方がいいのではないかというご意見があればどうぞ。
一般市民	泉南市で14年連続PTAに関わってきました。修学旅行の問題にしますと、わたしも子どもが行っていた修学旅行のときに、校長先生にどうしてこの小学校はおじいちゃん、お父さん、子どもが同じ伊勢で平和学習をしないのかと個人的に質問に行ったこともあります。その中で、地域に理解されての変更とかのお答えをいただきました。保護者の中には、平和学習自体をする必要がないと思っていらっしゃる方も多いのに驚きました。「敢えてどうして広島原爆のものを見に行かなければいけないのか。」「どうして沖縄まで行って反戦平和のことを考えなければいけないのか。」「修学旅行は楽しいものでいいんじゃないか。」保護者の中で意見が2つあるのに私としては驚きました。中学・高等学校に関しては入学式の時に3年後の修学旅行はこういう所。高校においては2年生の秋、夏という所もあります。学校それぞれ修学旅行を決める時に保護者に聞ける時、聞けない時、ただ、その当該学年に聞けない場合には、前年度の意見とかも聞かれてる中で、小学校の場合は6年間あって、そう長い先を見通さなくてもいいと思うので保護者の方がいろいろなPTA総会とか先生の懇談とかいろんな時に親はこう考えている、家族ではこういう楽しい旅行もできるから、こういう団体の時にこういう修学旅行をしてほしいとかいうのを、保護者が積極的に言っていかなければいけないと思っております。
元中学校PTA会長	長崎県佐世保市の大久保小学校で6年生の女の子が同級生の女の子を切りつけて死なせたという事件がありましたが、この思春期の子ども達の対処の仕方はどの親御さんでも大変な状況があると思うんです。そういった中で、小・中学校の義務教育で身に付けたいこと、結局、地域が子ども達を守っていく以外にないと思っています。だから、学校に目を向ける以前に、地域に学校がこうであるとか、もっと知らせてほしいと、そういうのが判れば、一段階として地域の大人、それから地域のそこに子どものいない人であっても関心を持っていけるような状況になるのではないかと思います。
小学生の	習字の授業について。週5日制になって時間が無いと言われている中で、時間を使

母親	うのであれば、学校できちんと教えていただけるように指導していただきたいと思います。お習字の上手な先生もあれば下手な先生もあると思うので、そういう時に、地域の関わりで、おじいちゃん、おばあちゃんや資格を持っていたり、資格がなくても字を書くのが上手な方とかに、学校に来ていただいて習字の時間をもっといただくとかしてほしい。学校ですべてを教えてもらえるように中身の濃い教育を、例えば外国の先生がいなければ、英語の話せるお母さんとかにお願いして来ていただくとか、そうすると「〇〇ちゃんのお母さん」とかすごく親しみも沸いて地域とも関連できるし子どもも親しみを持って教えていただけて、その学校の中ですべての子どもが平等に学力が上がっていけるように、もうひとつ、読み・書き・そろばんというのが今すごく見直されていますが、そろばんなんかも学校でしてほしいんですね。学校から帰った後は自由にみんな友達と遊んだりとかそういう時間に使えるので、できたらしていただきたいと思います。
審議委員	いいアイデアたくさん出していただきましたね。習字のうまい方が地域にたくさん、いらしゃるのだから、来ていただいたら、先生も楽になるのではないかと、そのとおりであります。さて、学校から帰ったら、家庭としては、そんなに習い事をさせたくないんだと、本当のことを言うと、学校できちんと教えてくれる方がいいということですね。これは、難しい問題がありまして、実は、学校で何を教えるべきかということは、国が決まておりまして、泉南市の教育委員会であろうとも、何を教えるべきであるとは決められない。非常につらいというのがあります。 そろばんを教えたいけれど、国が算数にそろばんをいらないとなれば、なかなかそれは教えられない。では、学校でまったく、そういうことはできないのでは、ということではなく、課外活動として、そういったことを展開できるような条件があればいいですね。そこに市民の方の協力があれば、私はどんどんできていけるのではないかという展望を持っております。そんなことを、この審議会の中で、ぜひ、議論させていいただきたいなと思っております。
幼稚園児と小学生の母親	泉南市でもパソコンの授業をされているようですが、先生のパソコンの知識にすごく差があるみたいで、入力技術、立ち上げの技術を教えてもらうことは基本的なことと思うのですが、子供が帰ってきて、「今日、パソコン習ったよ、インターネットでいろいろ調べましょう。おうちにパソコンのある人はやってみてね。」と言われて帰ってきたのです、私は、びっくりして、「先生はそれだけおっしゃったの。」と聞きましたら、それだけだったみたいで、たとえば、ネットで、絶対、個人情報を書かないこととか、人の悪口を書かないとか、もし書かれたら、先生に相談しましょうとか、そういう基本的なエチケットをまったく教えないままに、あと、長時間やれば料金もかかるご家庭があると思うんです、そういったことを教えられるように、先生のほうも、いろいろ勉強をしていただけたらなあと、感じました。
審議委員	携帯電話やパソコンのなどで、子供たちが犯罪等に巻き込まれると、あるいは、子供たち同士がとんでもない誹謗、中傷していくという事態が、佐世保の事件で明らか

	かになってきたわけでありましたが。そんなエチケットとか危機管理をちゃんと子供に教えてほしいとかいうところを見ると、どうやら、学校の先生自身がパソコンをうまく使っておられないと、こういう事態では困るということご意見ですね。
成人した子と、大学生、高校生の母親	子供たちの読書環境の充実ということを願っていろいろ活動をさせてもらってる。読書環境ということになりますと、学校の図書室の充実をもっとお願いしたい。いろいろと心の痛む事件が多い中で、心の教育だとか、豊かな人間性だとか言われているときに、やはり、図書に親しんでということは 大事なことになっていくと思うのです。心とか、目に見えない、効果が計られないことについては、常に意識をして積み重ねていくということが大事になっていくと思います。市のほうも、雇用促進だとか、いろんな形をとって、いくつかの学校に人を入れていただいております。実際、貸し出し冊数増えるとか、目に見えていることもお聞きしています。かなり厳しい状況でありますけれども、前向きに検討していただきたい。あと、もう一点、読書活動推進計画を策定するというのが、いまだ、されてると思いますが、泉南市の方でそれを策定していくという方向があるのかどうか、お聞きしたい。
事務局	読書活動推進計画につきましては、大阪府の方ではすでに策定されております。近隣の市町村では策定した、計画したと聞いております。泉南市におきましても、できましたら２ヵ年計画で策定したいと考えております。
審議委員	読書はとても大事なことで、私も、実は、子供が学力問題で専門なのですが、本を読んでも子と、読んでない子とでは、学力の差が大きいということが、これは昔から指摘されていることで、それだけではなくて、本というのは子供たちを世界に繋げる窓なのです、自分で世界中どこへでも行けるのであれば苦労はいらないですが、実は、本と言うものを通じて世界に繋がることができる、大切な道具のなのです。そういう読書環境を充実してほしいというご意見。泉南市は、図書館は一館しかありませんから、図書館のほうから学校の図書館をバックアップするという体制としては非常にしんどいと思います。その中で、お金のない町で、どうしたら子供たちに本が届く環境ができるかというアイデアを、また皆様、審議会のほうにお教えいただきたいと思います。
	先ほども、話に出ていましたけれど、開かれた学校ということですが、地域だけでなく、保護者にも、まだまだ、その小学校によっても差があるかもれませんが、うちの子の通ってる小学校は保護者にも開かれてない部分が多いのではないかと感じています。最近、安全ということに関しては、公報や回覧板で回していただいて、パトロール員さんの募集していただいて、開かれた SOS を求められてるかと思うのですが、もっと、他の分野でも、プラスの分野もあるでしょうし、たとえば、不登校、いじめ、学級崩壊とか負の部分でも、もっと情報を保護者とか地域に広げることによって、SOS を出すということによって、もっと地域の力を生かせるのではないかと感じております。やはり、小学校ですと、一人で遊びに行ったりするので、安全とか、安心とか、そういう部分が親としては不安に感じている部

	分も多いので、池田の事件で、この前３年目を迎えたというニュースが出てましたけど、登録すれば誰でも不審者情報がパソコンのメールにいつせいに流れてくるということをしてるようで、うちの校区だけかも知れませんが、パトロール員さんは登録をすればそういう情報が来ますということ、今回されるということを知りたかったですけれども、後の方はどうするかというと、来た方から情報を提供してくださいと、くれぐれも情報の提供だけの登録はだめですよ、という案内が来た。でも今はなかなか地域で結びつきも取れない親が多いですから、地域だけではなく、安心、安全というのは親の一番大切な事だと思うので、できればすべての保護者に情報が行きわたる様な安全のシステムを校区だけでなく、市として考えて頂ければと思います。
審議委員	今、現状、学校の中だけでなく、学校の外でもいろんな事件が起こっていると思うのです。たとえば、先日の５日の語る会の方でもお話が出たのですが、通学路の安全性の問題ですね、不審者情報もしかりですが、非常に情報が少ないと、どこからも情報が入ってこないという、携帯でそういう不審者情報が流れてきます、という話もあったのですが、実際問題、流れてくる時間のタイムロスというのが、すごく問題になるのではないかと、事が起こってから出てくるというのもけっこうありますので、情報共有できる場、学校から積極的に案内するとか、市の方で積極的にメールを広報していただいて活用するとか、そのような安全に対する取り組み、また、通学路のインフラの問題、歩道のない所を子供が歩いているとか、不審者から子供を守るというだけではなく、地域の交通から子供を守るという視点もできたら皆さん考えていただきたい。自分の子供だけよかったらいいのではなく、地域の家の前を通られるお子さんがおられたら、一言声をかけていただいて、子供１１０番とかの取り組みもされておりますので、子供さんが積極的に飛び込みやすい状況、子供１１０番の旗が上がってても、実際に、ここの家は知らないから飛び込みにくいというような子供の意見も、先日、小学校の方でお伺いしました。やはり、普段から、地域の子供さん方となんらかの接点を持って頂けたらと思います。
審議委員	不審者の問題だけでなく、子供の安全をもう少し包括的に考える、そのためには、市民の皆さん一人一人がもっと子供とのかかわりをきちんともっていくということが大事なのではないかと私は思います。池田小学校の不幸な事件から、カメラをつけ、門を閉ざし、という形で安全を守ろうという方法にすごく大きく動いたと思うのですが、実は、そんな事をすると、かえって、学校と地域とのパイプが途切れていくという問題が起きています。すると、学校はますます地域から孤立して、子供達が、地域の市民が、気に掛けないという問題が起きてしまう。それに対して、地域の人たちがもっと学校との連携や交友を深める事により、子供達を見守る人の数を増やしていくという積極的な安全の考え方が必要であるというご意見でありました。
小学校 3	聞いた話ですが、樽井小学校の去年の臨海学校で飯ごうすいさんを今までずっとし

年の子供の母親	ていたのですが、人数が多いと言う事と、先生方の手が足りないということで去年は飯ごうすいさんがなくて、学校に行って給食を食べて、学校を出発して目的地に行って、食事を食べて寝て帰ってくるという、5年生はそういう体験をしたわけです。やはり、班単位で協力をしながら、火をおこしてご飯を炊いて、というそれが大事なのではないかなあと私は思うので、それがなくて、行って泊まって帰ってくるというのは、何なのであろうというのは私は感じました。話は違うが、滋賀県の中学か高校か確かではないが、学校がすごく荒れていて、取り組まなくてはいけないということで、夜中に家を出て、山を登って日の出を見て帰ってくるというのがあったのです、危ない箇所には保護者が懐中電灯を持って、「危ないから気をつけなさい、もう少しだから頑張renaさいよ」と言って、山に登って日の出を見て、そこで、子供は感じて、帰りも「よく頑張ったね。」と親が声を掛けながら降りてきた時に、温かい味噌汁があって、それを子供達一人一人に親が渡して、それを食べたときに子供が涙を流して、言葉では言わないけれど涙を流した、それは体験を通して、心で感じて、それをすることによって、学校が荒れなくなった。という事実があるのです。そういう体験というのが子供にとっても感受性が豊かなので、大事なひとつなのではないかと私は思います。それと、運動会ですが、これは岸和田で実際にあった事です、かけっこをするのに、男の子と女の子が一緒によいドンをしてゴールまで行く競走をするのがあったのですが、一位二位するかどうかわかりませんが、男の子と女の子は体のつくりが違うのに同じ土俵で、いっせいにスタートして同じにゴールするというのは、それが本当に平等なのかどうかというのが、私はすごく感じるので、これからどうなっていくのかというのがちょっと気になります。
	今日のこの会場を見渡したら、幼小の低学年の方が多くて、小学校高学年、中学生の保護者がほとんどお仕事で参加の少ないのが非常に残念だと思います。その中には、言っても一緒という思いを持ってる人も多いと思います。私自身も先ほど発言させて頂いて、子育ては一段落しているのですが、今、私が0歳から中学生までいろんな形で泉南市内の子供達かかわらせていただいていること、もしくは、小中学生の保護者から愚痴やご相談を聞く中の意見を言ってみますと、先生の資質ということに触れると思います。特に今年から新採の先生が増えられた中で、現場の担任をお持ちで努力してくれているけれど、今、私は、自分の子供や子供の友人が教職につく年齢になって、そういう人もたくさんいる中で、この家の中で何もできない子供が子供を教えていると、それは恐ろしいという気がします。 自分自身が子供が幼稚園や小学校、中学校で保護者の時に、それを強く感じても、学校には保護者の不満でしか言えなかった、その時に先生から帰ってくるお言葉は、「教師も経験積んでいくので頑張ってます」という言葉ですけれども、私達の中一の子供はその一年間、先生にはまた来年中一の子供が来るけれども、私達の子供はその一年しかない、というのを強く思っていたきたいと思います。企業であ

	れば数字が上がらなければ切り捨てられる、でも、人というのが相手であったら、これは見えないものであったり、また、見えない所での子供達へのすごい影響力というのが当然認識されてると思うのですけれども。そして、新採の話に戻りまして、最初の教育実習をされてると思うのですけれども、その短い経験の中で、大学を卒業してすぐ現場というのも、先生ご本人も教えることについても一年生、社会人としても一年生、中学校であればクラブ活動の一年生、いろんな一年生の中で、中学校であれば教科の横の並びと学年の それぞれ横の並びでたくさんの指導の受ける場があると思いますが、小学校であれば悪い意味で学級崩壊という言い方をされましたけれども、同じ同僚でも学級運営については口をはさめない状況の中で、いま保護者は、いろんな保護者がいる中で、先生もご苦労される、後は人数や予算の関係になると思いますが、できるだけ新任の先生に十分な教育をした上での、もちろん子供達との接点の上で学ぶことはたくさんあるのは承知していますが、もっと学んでいく先生が机上論だけでなく、今までやってきたのとは違う、それではどうすればいいのかという先生の支援体制も学校の中でしっかりと作り上げていっていただきたいと思います。
審議委員	教師の質をどう高めていくか、もっときっちりとトレーニングしていただきたいということですね。50年代、学校の先生というのは地域からみれば圧倒的に賢い人でしたけれど、今は違いますね、普通の人ですね。それは、市民の水準がこの50年ぐらいでものすごく上がって、学校の先生というのが普通になっちゃった。そうすると、学校の先生のええかげんなところが目についてくるという、多少、学校の先生にとっては辛い時代になってきたかなあ、しかし、辛い時代になったからといってもしかたないことで、結果責任をきちんととっていきましょうということですね。今後は、学校教育の結果責任についてしっかり議論していきましょう。
	今のご意見は、私もいつも思っていることですが、それとあと、小学校は1年から6年までで幅が広すぎるのです。子供が1年生の子と6年生の子を見ても成長の度合いがぜんぜん違います。6年を担任していた先生が、たとえば1年生をもった時にもものすごいギャップを感じて、なんてこの子達は何もできないのだろうとイライラしたり、指導の幅をどういうふうに先生方はされてるかなあというのをすごく思います。低学年は比較的に若い先生で、体を使う仕事というか、部屋にずっといて子供と外にも出て、一緒に遊んでという、やはり学校に入ったときの馴染むまでの1, 2年生が一番大事だと思うのです。それを見てくれるのに、いつも一緒に子供と動いてくれないと、ただ、勉強の時だけ来て、休み時間は職員室に帰ってしまうとか、そういう先生がもし低学年であったら、子供達はグループを作っていたり、集団にいたりする時にだめだなあと思うのです。先生の日やかかわり、友達を作っていたりするときのかかわりは絶対に必要なもので、その辺を、低学年の先生、高学年の先生、というのを完全に分けることは難しいかもしれないけれども、ある程度は、低学年専門、高学年専門という枠はあってもいいんじゃないかと思

	ます。得意もあると思います、低学年の方が好き、高学年の方が好きという先生もあると思います、その点も考えてほしいと思います。
	小学校は性教育はどうなのでしょう。小学校の子供はいないのでわからないのですが、何年生から始まっているのでしょうか。
事務局	性教育につきましては、大切な命を育む教育といった位置付けで行うべきものであると考えております。たとえば、一番多いパターンと思われるのは、小学校では、中学校でもそうですが、養護教諭といいまして、保健の先生がいますね、その保健担当の先生が、5、6年生に性教育を行うというパターンが一番多いのではないかと思います。ただ、それは一般的であって、学校によってはこの性教育を早い段階で、子供達にきちんと身につけさせたいということで、取り組みが早い、たとえば3年生からとか、そんなことを計画している学校もあるかのように思います。
	できたら、その一環として、赤ちゃん、妊婦さんとか乳幼児、そういう交流の場を入れてもらった方がいいのかと思います。命の大切さ、どんなふうにして自分達が生まれた来たのかよくわかると思うんですね。5、6年生になってしまうと、近所に赤ちゃんがいたら見る機会もあると思うんですが、実際、見てなくて育ってくる方も多いと思うんです、その時点で自分が始めて、母親なり父親なりになって虐待とかに繋がる場合もあるし、できたら、そういう交流の場があったらなあと思ったりもします。
審議委員	職業体験教育で、たぶん、保育所、幼稚園、中学校等が連携するというケースが最近増えてきているのではないかと思います。性教育は学校の先生は実は不得意分野です。そうですね、出産も経験したことのない未経験者もたくさんいる訳ですから、実は、保護者の方のほうが、どちらかという、経験も豊富で得ることもたくさんあるということは、保護者との連携、市民との連携でもっと中にいいものを作っていくべきだなあということですね。では、ここで、学校教育を最後にしたいと思います。
	今の性教育なんですけれども、いろんな所にいろんな友達がいて、いろんな情報が入ってくるのですけれども、小学校3年生で実際に男性と女性の人形を使って、こうやって子供ができるんだよというのを実際に学校の教室の中で性教育として、行った学校があるそうです。それはちょっとどうかなあ、命の尊さとか、ぜんぜんかけ離れて、ただ興味本意だけが引き出されような教育をされてはちょっと困るなあとは私はその話を聞いて思いました。日本の中で、性教育がどうなっているのか、まったくつかめないのが、やはり、その辺のことも、どういう方向性をもって取り組むのかということを明確にしていきたいなと思います。
審議委員	おそらく学校の現場の先生達で性教育研究会というのをたぶん作っておられると思うんです、それぞれ、算数なら算数、数学なら数学ということで、その領域ごとにいろんな緊急活動を先生方はやっておられて、そういう先生方の緊急活動と、そして保護者、市民の皆さんの対応という機会をもっともっと作っていくべきだなあ

	と、今、お話を聞いてて、そうかぁ、先生達がどういふうに性教育の内容を作っ ていっておられるという情報はぜんぜん皆さんへは伝わっていないんだとわかり ました。ありがとうございました。
--	--

家庭・地域の取り組みについて

	鳴滝第二保育所で、子育て支援センター「ひだまり」がありますよね、月に二回開 いてるんですね、できれば、他市では児童館ってありますよね、または、一ヶ月に 二回というのではなく、毎週開いているという施設ができたらなぁと思うのですけれ ど。財政のこともあるのですけれど、前向きに考えてほしいなぁと思うのですけれ ど。
幼稚園の 年長の母 親	私は新家に住んでいるのですけれど、子供がまだ0歳、1歳のときに、何かといえ ば樽井公民館でいろいろ行事があったんです。私は免許も車もあったので、たまに 遊びに行ってたのですが、うちの裏は新家公民館がありますが、そこではほとんど 何もやってなかったのです。外に出たいという母親がいるのですが、車も免許も なく、行きたくても行けない方がたくさんいるのではないかと思います。樽井公民 館だけでなく、新家やほかの地域でもやってもらえたらなと思います。
一般市民	教育のあり方、何が悪い、何が今のこんな複雑の時代になったのか、3年間ぐら い、いや、それは国が悪い、いや、それは学校が悪い、いや、家庭が悪い、そうい うことばかりを話し合ってきました。その中で、そういう議論をして批判をしてい る自分が一番悪いと私は気がつきました。それで、2年前から、それなら、学校が 悪いのなら学校へ行ってみようではないか、家庭が悪いのであれば、その悪い家庭 を見ようではないか、というような実践をしてみいました。そして、ちょうど2 年前、その学校で、朝の挨拶運動にまいりまして、その挨拶運動をする中で、学校 に行ったら、ものすごいゴミや草といったものが目につきました、それで、自分は 早く行って、ゴミを拾い集めて、学校の校門付近をきれいにしてから、生徒が来ま した。それで挨拶をしていく、それで先生方も同じように立ってくれます、それが 3度4度繰り返される中で、今朝もその中学校に行って、朝の挨拶運動を生徒達に したのですが、その朝行った時にゴミがないのです、きれいになってるなぁ、なん できれいになってるのか、もし、このきれいさが、僕がゴミを拾う習慣をつけたこ とで、そのことを先生が見ていて、先生が拾ってくれたとしたら、すばらしい環境 づくりに皆さんが取り組んでくれたことになるなぁ、といったことを思いながら、 先生、今日もご苦労様と帰って来ました。
審議委員	今の意見と私も同感で、それなら私は何をするのかなぁというところに今日、みん なが立てたらうれしいなと思って今までの話を聞いていました。私自身も泉南市 で生まれ、娘2人も泉南市の小中学校でお世話になって、20歳を2人とも過ぎま した。 その中で、とりわけ、地域に対する思いを強く持っています。 今は、子供の手が離れましたので。教育委員会の方が提起していただいて、さっき

	も安全の問題が出ていましたが、安全パトロールの腕章を泉南市からいただきました。とにかく一人でも一度道にたってみましょうと思って、家の近くで毎朝、この3週間ほど立っているのですが、そこで見えてきたことというのは、本当に子供たちは毎日毎日変化していくのです。私に対する顔つきとか。はじめは私のほうから「おはよう」と言っていたのが、遠い所から、「おばちゃん」と言って来てくれる子が最近何人も出てきました。それと、小学校で昨日はこんなんやったとか、朝ごはんたくさん食べてきたとか、今日は、「おばちゃん、やるわぁ。」と、かわいらしいツルツルの石をくれました。その辺の子供との関係、一人立ってることで、そこを通る大人のひととの関係、同じ時間帯に立ってることで、いつも同じ方に出会うのです、昔から知ってる人のように挨拶ができるようになってきて、その辺は、私は子育ての間も、すごくいろんな関係を子供たちに、私自身の人間関係を子供二人のお蔭で広げてもらったのですが、子育て終わっても、地域のいち人間として、子供とつながり、地域の人間とつながらせてもらえる私ってすごい幸せかなあと思うのです。この行動を一步出なかったら、こういう関係がないので、ぜひとも、何かを変えていくひとつというのは、自分が何か一步を踏み出すことにあるのではないかなあ強く感じますので、ぜひぜひ、一步できることから、一番近くのところからやれたら一番いいんちがうかなあ、それが地域の人の仕事かなとすごく感じますので、よろしくお願いします。
	先ほども言わせていただいたのですが、私は、今、家で家庭文庫というのをしております。図書館の方からも500冊近い本を借りて、週に1回してるのですが、そこに来てくれる子供達と、私の一番下の子は高1なのですが、小学校に行っている子供に朝、道に立つと、「今日文庫の日やね、来てね」という会話をすることができます。別に500冊というのがなくても、ご自分の子供と子供のお友達、近所の子供達と、ダンボールひとつかふたつぐらいの絵本があれば、楽しむことができると思うのです。団体貸し出しというのは、泉南市立図書館の方で手続きすればしていただくことができると思いますので、ぽんとダンボールひとつ玄関口に置いて、そこに本が30冊ぐらいあるということで、すごく楽しい時間が過ごせると、そういうことひとつでも、何かなるんじゃないかと思っています。ぜひ、いろんなところで本を介して、自分の子供と地域の子供達と一緒に楽しい時間を過ごしていただけたらと思っています。
	地域の取り組みということで、私はまず、あちこちでお話させていただくのは、地域に先生を作ろうと、これは学校の先生ではなく、地域において子供達を教えることのできる先生、それは先生の資格を持っていなくてもいいんですが、たとえば、皆さん学校でクラブ活動をやっておられたと思うのですが、バレーボールや吹奏楽、それぞれ得意分野はあると思います。逆に今、趣味をお持ちの方もおられると思いますので、いましたら学校の方とお話していただいても結構ですし、独自でアクションしていただいて、子供達に何か教える場、子供達とかかわ

	る場というのをできるだけ持っていただきたい。 私も、泉南市でないのですがスポーツ少年団の団長をやっております、子供達と接する機会も多いわけですが、その中で、何かひとつの同じ話題ができますと、子供達はすごい目が輝くのです。バスケットボールのルールであるとか、私はヨットを教えましたので、ヨットの操船の仕方がどうだとか、自分はスキッパーになりたいねんとか、そのような夢のある話が趣味の中に隠れていることがたくさんある訳です、今は何もやってないけれども昔クラブやってましたよとか、クラブでなくても縄縄を作るのが得意であるとか、わらじ作るのが得意ですよとか、そういうのも結構ですか、できれば皆さん地域の先生になっていただけたらなあと思います。
	私もバレーボールで中学生の子供達にかわりさせてもらったら、今、高二になった子供も、樽井小で遊んでいる中二の男の子でも、「おばちゃん」とかすごく声を掛けてくれる。ここにいらっしゃる小さい子供のお持ちの方は、中学生って怖かったと思うんです、私もそうでした。やはり、誰かわかると声掛けできる、こっちから何もないのに声掛けにくい、そしたら、いろんな所でのつながりができれば、幸いに泉南市内では4つの中学校校区で、「ふれあいフォーラム」とか「ふれあいフェスタ」とかいろんな名前で交流をされてる。小さい子供さんをお持ちの方は、自分は参加者だと言う思いで、参加されてたんじゃないかなあと思う、子供を連れていらっしゃる方ではないかなあと思う、その母親は、中学生や小学生から見れば、いろんなことをしてきた先輩であるのだから、自分も子供のためにしてもらいながら、自分もできることでいろいろ参加していければ、サークル作って何かしたりしていただけたらなあと思います。私でも自分は誰にでも声を掛けてしまうほうですが、このご時世に不審者だと思われぬようにそういうものがあるといいなあ思いました。
幼稚園と小学生の母	先ほどから、安全ということは何回も申し上げているのですが、やはり、上が2年生、下が幼稚園の年少の子がいますが、帰る頃の時間というのは交通量もかなり多いですし、道幅も狭い所に行ったりもするので、ドキドキしながら送り出しているのですけれど、だからと言って、二人の子供を毎日お友達の所に送り迎えするとか、来てもらった友達、下の子の場合、お友達が家に来てもらったなら、ずっと一緒にいないといけないので、いつまでも親がというわけにはいかないのです、やはり地域の方、行政の方でもできるだけ支援をしていただきたいです。たとえば、私が子供の頃住んでいた町でしたら、5時とか5時半に放送が入るのです、「夕焼け小焼け」とか流れて、子供達は5時半だから帰りましょうとかすぐわかるし、地域の方でもこんな時間だからと子供にも声を掛けやすいんじゃないかなあ。他の校区はわからないのですが、小学校でチャイムを鳴らしてもらってるみたいですが、遊びに夢中になっている子供達の全校区をカバーできるか、たぶんできてないだろうと思っています。で、公園に時計があるかという、なかったりするので、ちょっとそういうふうな工夫をしていただきたいと思います。それと、先ほどもでしたが、地域

	で園庭を開放とか所庭を開放とか、地域の子供達にも、幼稚園の施設を開いていこうという取り組みをしていただいているのですが、ただ、園庭は歩ける子供でないとなかなか行きにくいということもありますし、乳児が気軽に集まれる場所というのが、地域の格差もありますが、本当に少ないという現状があるかと思います。できれば、今ある施設を、公民館や小学校や幼稚園の空き教室であるとかを大いに利用して、乳幼児、修園前の子供達にももっと開いていっていただきたいというのがあります。あと、最後に、いろんな情報を地域に発信していただけるのはいいのですが、けれども、ばらばらで、いろんなところで取り組み支援をされてるから、どこにいったい聞けばいいのかということがわからない。たとえば、児童福祉課でやっておられる事を教育委員会とか保健センターに聴いてもなかなかわからないし、同じような子育てを対象にしたイベントが同じ日に同じ時間にしてたりするのは非常にもったいないなあと思います。情報をコーディネートできるような機関であるとか、そういうものを設置していただいたら、もっと皆さんにPRもできるし、市民も利用しやすいんではないかと考えております。
	中学生の人は怖いというけれども、泉南市には高校がふたつありますよね、ちょうどちは樽井校区なので、泉南高校があります。高校生はやはり小学校の子から見たらだいぶ怖いですよ、高校はどういう位置付けであるのかなあと思ひまして、まったく地域と関係ない位置にいるのかどうなのか知りたくて。
審議委員	高校は府の教育委員会の管轄なので泉南市教育委員会と言えどもなかなか手出しできないというのがあるのではすけれども、しかし、地元から孤立して怖いと思われるだけの高校で本当に高校生達は育つのであろうか、これはどう考えても疑問ですよ。そういう意味で府の教育委員会とも連携して、高校と泉南市民と連携活動なんかをきちんとしていただけたらなあと思います。
幼稚園児の母親	再来年小学校に上がる予定ですが、やはり非常に不安です、先月ですか、インターネットの方に「大阪の小学生を殺す」というような情報が流れました、たくさんパトロールの方も増えてきて、すごくありがたう思っているのですが、パトロールの方がいる所には不審者はたぶんでこないと思うんです、どうしても限界、死角となるものがあると思うんです。子供達自身が自分で自分を守るためのプログラム「キャップ」というがあるのですが、一部地域では泉南市でも実施されております。ただ、今のところ一部地域でしかやってないのです。私はこれを全児童にうけてほしいなあと思います。大人向けのプログラムもありますので、子供達が実際にどんなふうに護身術とか、寸劇を見ていやとっていいんだとか、相談するとか、逃げるとか、子供達に体験してもらって学ぶプログラムなので、その内容を地域の方や保護者の方も学んでいただいて、どんなふうにフォローしていったらいいのかということとをちゃんと予算を取っていただいて市内全体でしていただけたらなあと思っています。